

『沖縄北部地域レンタサイクル社会実験』の実施の背景



1

【背景】

○名護市、恩納村内の国道58号は、夏季観光シーズンは通常季に比べて交通量が増加し、慢性的な交通渋滞が発生。

○この時期の交通量の増加は、沿道の観光施設へ訪れる観光客（レンタカー）が主であり、宿泊先～食事～土産屋等といった短トリップの自動車利用による交通量増加が原因。



【恩納村（恩納小中学校付近）の渋滞状況】

○また、道に不慣れな観光客（ドライバー）が多いことが目的地を探しながらの走行となり、旅行速度への乱れを増長。

○現在、北部国道事務所では、抜本的な渋滞の解消に向けて恩納バイパスおよび恩納南バイパスの整備を推進。

○しかし、供用までには、しばらくの時間を要し、また、バイパス整備により、現道の通過交通が減少することで、沿道地域のにぎわいに影響を及ぼす可能性が懸念。

【課題解決に向けて】

以下を目的として、沖縄北部地域（名護市、恩納村）でレンタサイクル（自転車の貸し出し）社会実験を実施。

①観光シーズンの交通渋滞の緩和

名護市、恩納村内の交通渋滞の主たる要因である観光客のレンタカー利用のうち、短トリップ（例えば、宿泊先→食事等）の移動を自転車利用してもらうことで、交通渋滞の緩和や、排出ガスの抑制への効果が期待。

②地域活性化

自転車でのんびりと走行することで、自動車の移動では見過ごしてしまうような「地域の魅力」を利用者に再発見してもらい、地域活性化の起爆剤に繋がることを期待。